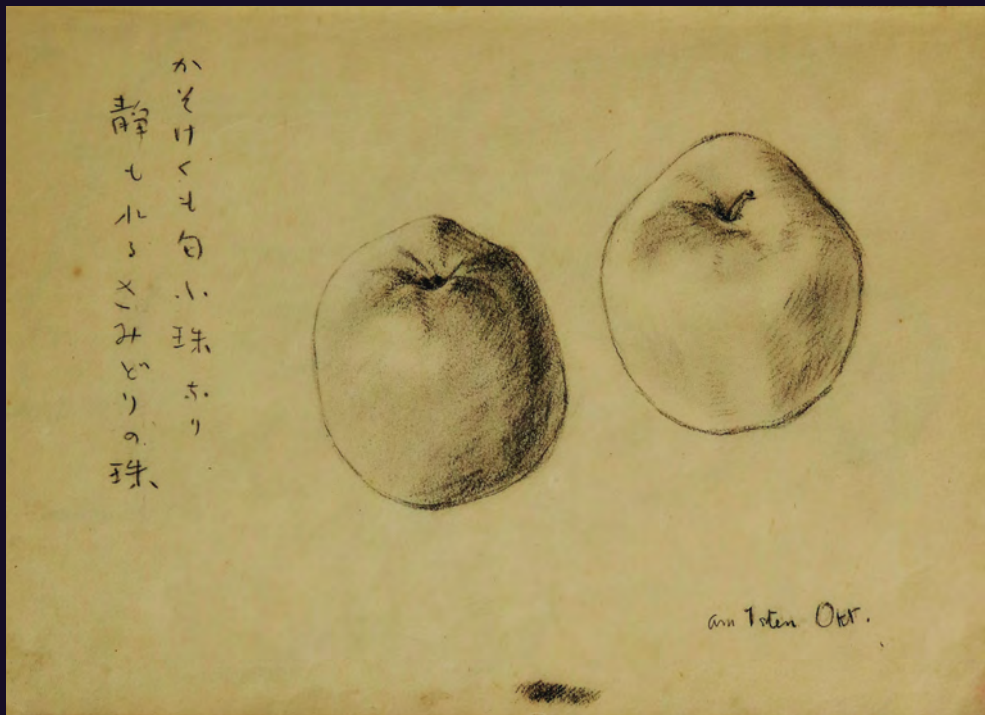


# 木村素衛

—西田幾多郎に愛された教育哲学者—



スケッチ「りんご」(信濃教育会蔵)

宇宙が闇だとする。  
そして人間の心が一つ一つの星として  
輝いて見えるとする。  
濁った心は濁って光るとする。  
さう云ふ世界を考へた時、  
美しい子供の心と云ふものは  
一体どれ程の美しい光輝を以って  
輝き渡るだろう。

〔昭和十二（一九三六）年五月四日の日記〕



平成 29 年 10 月 17 日 (火) ~ 平成 30 年 3 月 25 日 (日)

西田幾多郎から大きな影響を受け、戦後多くの教員に希望を与えた教育哲学者がいました。木村素衛 (1895-1946 / 石川県加賀市出身)。理想を追い求める情熱的な意思と、小さなものたちの美しさを愛する繊細な感性を持ったロマンチスト。幾多郎もその才能と人柄を愛しました。二人の師弟関係を軸に「愛の人」木村素衛を紹介します。

関連イベント

① 10 月 22 日 (日) 13 時 30 分 ~

対談「父・木村素衛からの贈りもの」

ゲスト: 張さつき氏 (木村素衛氏四女) / 聞き手: 浅見洋 (西田哲学館長)  
参加費無料、申込不要

② 平成 30 年 2 月 24 日 (土) 13 時 30 分 ~

講座「ある教育学論—西田幾多郎と木村素衛の場合—」

金沢ふるさと偉人館長 輪島道友氏  
参加費 500 円\*、申込不要 \*西田幾多郎哲学講座年間受講者は無料

石川県  
西田幾多郎記念哲学館  
Ishikawa NISHIDA KITARO Museum of Philosophy

〒929-1126 石川県かほく市内日角井 1  
TEL (076) 283-6600 FAX (076) 283-6320  
URL <http://www.nishidatetsugakukan.org/>  
E-mail [nishida-museum@city.kahoku.ishikawa.jp](mailto:nishida-museum@city.kahoku.ishikawa.jp)

開館時間 ■ 9:00 ~ 21:00 (入館は 20:30 まで)  
休館日 ■ 月曜日 (祝日の場合は翌平日)、年末年始 (12 月 29 日 ~ 1 月 3 日)  
観覧料 ■ 一般 300 円 / 高齢者 (65 歳以上) 200 円 / 高校生以下無料  
交通アクセス  
【車利用】北陸自動車道 [金沢東 IC] - 国道 159 号線 (約 20 分)  
のと里山海道 [白尾 IC] - (約 5 分)  
【JR 利用】金沢駅 - JR いしかわ鉄道線・七尾線 (約 25 分) - 宇野気駅 -  
徒歩 (約 20 分) - 哲学館







企画展

# 木村素衛

—西田幾多郎に愛された教育哲学者—

平成 29 年 10 月 17 日 (火) ~  
平成 30 年 3 月 25 日 (日)

西田幾多郎から大きな影響を受け、戦後多くの教員に希望を与えた教育哲学者がいました。木村素衛(1895-1946 / 石川県加賀市出身) 若くして貧しさや突然の病に苦しめられた彼は、失意の病床で哲学と出会い、西田幾多郎を師と仰ぎます。哲学・美学の研究に情熱を傾けながらも、師の勧めにより教育学へ転向します。苦悶のなかで教育哲学者となる木村ですが、モノづくりの思想を基盤にして独自の教育哲学を構築しました。同時に、信州の小中学校の教師たちからの要請に応え、熱心に教育現場へと講演に出向きました。戦後は、日本の教育再建の方向を指し示す、アメリカ教育使節団に対応する委員に指名されます。大いに期待されますが、昭和 21 年 2 月 12 日微熱をおして講演に向かった信州で、51 歳を目前にして急逝しました。没後も信州の教員たちは木村素衛を敬慕し続け、現在でも長野県下には 5 つの彼の碑が大切に守られ、その思想が息づいています。雄大な信州の自然を愛した彼は、得意な絵や詩歌でその時々的情景を残しました。また、ささやかな日常の中にも美しさを見出す豊かな感性を持ち、ロマンチックな表現で日記や随筆を残し、時には恩師さへもユーモラスに描いています。幾多郎はこうした木村の境遇に同情し、また、その才能や人柄を愛しました。ふたりの師弟関係を見つめながら、「愛の人」木村素衛を紹介します。

色紙「かそけくも消え行く光 雪かそも白き雲片 安曇野に紫雲英咲く  
畔に立ちひとり思へり われ死なばこの山見ゆる 野の末に葬れかしと」  
(南安曇教育文化会館記念碑の詩、安曇野市教育会蔵)

かそけくも消え行く光  
雪かそも白き雲片  
安曇野に紫雲英咲く  
畔に立ちひとり思へり  
われ死なばこの山見ゆる  
野の末に葬れかしと

素



スケッチ (信濃教育会蔵)

写真 昭和十五年頃、娘のさつきさんを抱いて (信濃教育会蔵)



西田幾多郎から木村素衛宛書簡  
「木村、コノ論文はヨイソ」  
(昭和十四年三月十九日、安曇野市教育会蔵)

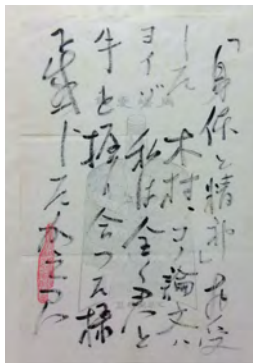


写真 昭和十九年頃、西田幾多郎と木村素衛



### ■その他展示資料

- 西田幾多郎講義の聴講ノート (信濃教育会蔵)
- 『表現愛』初版の序、直筆原稿 (信濃教育会蔵)
- 『科学思潮』湯川秀樹と木村素衛の対談 (昭和 17 年 6 月 1 日発行)
- 木村素衛書「つゆ雨にけふるか山路師の逝きて幾日と思ふ眼のかすめるか」(安曇野市教育会蔵)
- 西田幾多郎書「素心愛山水此日東南行笑解塵纒處滄浪無限清」(安曇野市教育会蔵)